

るため、英語での討論にあまり不自由をしない参加者が多かった。

なお、同学会の大会は毎年3月頃に開催されており、昨年の2000年センサスをテーマとした大会では廣嶋清志・島根大学教授が報告された。中華民国（台湾）人口学会と昨年の大会について詳しくは廣嶋教授による学界消息（「台湾人口学会大会出席報告」『人口学研究』第24号，1999年）を参照されたい。今後の台湾人口学会（および韓国人口学会）大会の案内は3カ国覚書に従い、新たな国際交流担当理事によって会報等を通じて日本人口学会会員に周知されることになっている。（小島 宏記）

ヨーロッパ出生力・家族調査（FFS）国際会議

2000年5月29日～31日にベルギーのブリュッセルにおいて、ヨーロッパ出生力・家族調査国際会議（FFS Flagship Conference）が開催された。FFS（Fertility and Family Surveys）は1988年から1998年にかけて、PAUとUNFPAの協力・支援のもと、国連ヨーロッパ経済委員会（ECE）に加盟している23の国々において実施された国際比較を目的とした調査プロジェクトであり、これまでこの地域におけるパートナーシップや出生行動の近年の変化についての重要な知見を提供してきた。各国の調査結果については、Fertility and Family Surveys in Countries of the ECE Region: Standard Country Reportとして出版されている。今回の会議は、1999年末にプロジェクトが終了したことをうけて、その成果を集大成する目的で開催されたものである。会議のテーマは "Partnership and Fertility - A Revolution?" であった。

会議は以下の6つのセッションで構成されていた； パートナーシップ行動、 FFS データベース、 出生行動、 方法論と接近法、 パートナーシップと出生力の相互関係、 今後にむけての研究課題と政策アジェンダ。それぞれのセッションでは招待研究者による報告に続いて、投稿論文の報告があった。その他にポスターセッションが開催され、筆者は出生動向基本調査を用いた、日本のパートナーシップ行動の特徴に関する報告を行った。全体を通じて、第二の人口転換のヨーロッパにおける多様性が指摘されていたが、結婚行動や出生行動に育児政策のみならず高等教育のあり方が関連しているといった指摘は興味深かった。（岩澤美帆記）